

2010年実施センター試験 数学 II 解説

2010年1月21日作成

2010年1月24日修正

第1問

〔1〕連立方程式

$$\begin{cases} xy = 128 & \cdots (1.1) \\ \frac{1}{\log_2 x} + \frac{1}{\log_2 y} = \frac{7}{12} & \cdots (1.2) \end{cases}$$

を満たす正の実数 x, y を求める。

ただし、 $x \neq 1, y \neq 1$ である。

$$\text{公式 } \log xy = \log x + \log y$$

より、式 (1.1) から、

$$\log_2 x + \log_2 y = 7 \cdots (1.3) \quad \cdots (\text{答}) (\boxed{\text{ア}})$$

一方、式 (1.2) について、左辺を変形すると、

$$\frac{1}{\log_2 x} + \frac{1}{\log_2 y} = \frac{\log_2 x + \log_2 y}{(\log_2 x)(\log_2 y)}$$

したがって、式 (1.3) を分子に代入してあげれば、

$$\frac{7}{(\log_2 x)(\log_2 y)} = \frac{7}{12}$$

$$\therefore (\log_2 x)(\log_2 y) = 12 \cdots (1.4) \quad \cdots (\text{答}) (\boxed{\text{イウ}})$$

すると、式 (1.3) と式 (1.4) から、解が $\log_2 x, \log_2 y$ である 2 次方程式を考えることができる。

t を変数とすると、この 2 次方程式は解と係数の公式より、

$$t^2 - 7t + 12 = 0 \cdots (1.5) \quad \cdots (\text{答}) (\boxed{\text{エ}}, \boxed{\text{オカ}})$$

となる。

式 (1.5) は、

$$(t - 3)(t - 4) = 0$$

となるから、(1.5) の解は $t = 3, 4$ $\cdots (\text{答}) (\boxed{\text{キ}}, \boxed{\text{ク}})$

$t = 3$ のとき、

$$\log_2 x = 3, \log_2 y = 4$$

$$\therefore x = 8, y = 16 \quad \cdots (\text{答}) (\boxed{\text{ケ}}, \boxed{\text{コサ}})$$

また、 $t = 4$ のとき、上の x と y が入れ替わって、

$$\log_2 x = 4, \log_2 y = 3$$

$$\therefore x = 16, y = 8$$

となる。

〔2〕 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ に対して、

$$\sin 4\theta = \cos \theta \cdots (1.6) \quad \cdots (\text{答}) \left(\boxed{\text{シ}} \right)$$

ここで、 $\sin \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right) = \cos \theta$

$$(\because) \sin \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right) = \sin \frac{\pi}{2} \cos \theta - \cos \frac{\pi}{2} \sin \theta = \cos \theta$$

したがって、

$$\sin 4\theta = \sin \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right)$$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ であることと、 $\sin X = \sin(\pi - X)$ に注意すれば、

$$\therefore 4\theta = \frac{\pi}{2} - \theta \text{ または } 4\theta = \pi - \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right)$$

$$\therefore \theta = \frac{\pi}{6} \text{ または } \theta = \frac{\pi}{10} \quad \cdots (\text{答}) \left(\boxed{\text{ス}}, \boxed{\text{セソ}} \right)$$

ゆえに、 $\sin \frac{\pi}{6} = \frac{1}{2}$ である。 $\cdots (\text{答}) \left(\boxed{\text{タ}}, \boxed{\text{チ}} \right)$

一方で、式 (1.6) の左辺に 2 倍角の公式を適用すると、

$$2 \sin 2\theta \cos 2\theta = \cos \theta \quad \cdots (\text{答}) \left(\boxed{\text{ツ}} \right)$$

さらに 2 倍角の公式を左辺に適用すれば、

$$2(2 \sin \theta \cos \theta)(1 - 2 \sin^2 \theta) = \cos \theta$$

$$\therefore (4 \sin \theta - 8 \sin^3 \theta) \cos \theta = \cos \theta \quad \cdots (\text{答}) \left(\boxed{\text{テ}}, \boxed{\text{ト}} \right)$$

ここで、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ より、 $\cos \theta > 0$ だから、

$$8 \sin^3 \theta - 4 \sin \theta + 1 = 0 \cdots (1.7)$$

$\theta = \frac{\pi}{6}$ は式 (1.7) を満たすから、左辺を $2 \sin \theta - 1$ (この解は $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ で $\theta = \frac{\pi}{6}$ である) で割ってあげると、

$$4 \sin^2 \theta + 2 \sin \theta - 1 = 0 \quad \cdots (\text{答}) \left(\boxed{\text{ナ}}, \boxed{\text{ニ}} \right)$$

$$\therefore \sin \theta = \frac{-1 \pm \sqrt{1+4}}{4} = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{4}$$

ここで、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ から、 $\sin \theta > 0$ なので、

$$\sin \theta = \frac{-1 + \sqrt{5}}{4} \quad \cdots (\text{答}) \left(\frac{\boxed{\text{ヌネ}} + \sqrt{\boxed{\text{ノ}}}}{\boxed{\text{ハ}}} \right)$$

第2問

k を実数とし、座標平面上に点 $P(1, 0)$ をとる。

曲線 C を

$$y = -x^3 + 9x^2 + kx = -x(x^2 - 9x - k)$$

とする。

(1) 点 $Q(t, -t^3 + 9t^2 + kt)$ における曲線 C の接線を l とおくと、 $y' = -3x^2 + 18x + k$ より接線 l は、

$$y - (-t^3 + 9t^2 + kt) = (-3t^2 + 18t + k)(x - t)$$

また、この接線が点 P を通るから、

$$0 - (-t^3 + 9t^2 + kt) = (-3t^2 + 18t + k)(1 - t)$$

$$\therefore t^3 - 9t^2 - kt = -3t^2 + 18t + k + 3t^3 - 18t^2 - kt$$

$$\therefore -2t^3 + 12t^2 - 18t = k \quad \dots (\text{答}) \left(\boxed{\text{ア}}, \boxed{\text{イウ}}, \boxed{\text{エオ}} \right)$$

ここで、

$$p(t) = -2t^3 + 12t^2 - 18t$$

とおくと、

$$p'(t) = -6t^2 + 24t - 18$$

だから、

$$-6t^2 + 24t - 18 = 0$$

を解くと、

$$t = 1, 3$$

ポイント

$f(x) = ax^3 + bx^2 + cx + d$ に対して、

$f'(x) = 3ax^2 + 2bx + c = 0$ の解を $x = \alpha, \beta (\alpha < \beta)$ とすると、

$a > 0$ ならば、 $x = \alpha$ で極小値 $f(\alpha)$ 、 $x = \beta$ で極大値 $f(\beta)$ をとる。

$a < 0$ ならば、 $x = \alpha$ で極大値 $f(\alpha)$ 、 $x = \beta$ で極小値 $f(\beta)$ をとる。

したがって、 $t = 1$ で極小値 $f(1) = -8$ をとり、 $t = 3$ で極大値 $f(3) = 0$ をとる。

$$\dots (\text{答}) \left(\boxed{\text{カ}}, \boxed{\text{キク}}, \boxed{\text{ケ}}, \boxed{\text{コ}} \right)$$

実際に増減表を書けば、

t		1		3	
$p'(t)$	-	0	+	0	-
$p(t)$	\searrow	-8	\nearrow	0	\searrow

となる。

$y = k$ と $y = p(t)$ との交点の数は、点 P を通る曲線 C の接線の本数だから、

$$\left\{ \begin{array}{ll} k < -8 \text{ のとき } 1 \text{ 個} & \dots (\text{答}) \left(\boxed{\text{タ}} \right) \\ k = -8 \text{ のとき } 2 \text{ 個} & \dots (\text{答}) \left(\boxed{\text{シス}} \right) \\ -8 < k < 0 \text{ のとき } 3 \text{ 個} & \dots (\text{答}) \left(\boxed{\text{ソ}} \right) \\ k = 0 \text{ のとき } 2 \text{ 個} & \dots (\text{答}) \left(\boxed{\text{サ}} \right) \\ 0 < k \text{ のとき } 1 \text{ 個} & \dots (\text{答}) \left(\boxed{\text{セ}} \right) \end{array} \right.$$

となる。

(2) $k = 0$ とすると、曲線 C は、

$$y = -x^3 + 9x^2 = -x^2(x - 9) \cdots (2.1)$$

一方で、曲線 D を、

$$y = -x^3 + 6x^2 + 7x = -x(3x^2 - 6x - 7) \cdots (2.2)$$

とする。

式 (2.1) に式 (2.2) を代入すると、

$$-x^3 + 9x^2 = -x^3 + 6x^2 + 7x$$

$$\therefore 3x^2 - 7x = 0$$

$$\therefore x = 0, \frac{7}{3} \quad \cdots (\text{答}) \left(\begin{array}{|c|} \hline \text{チ} \\ \hline \end{array}, \begin{array}{|c|} \hline \text{ツ} \\ \hline \text{テ} \\ \hline \end{array} \right)$$

$-1 \leq x \leq 2$ において、 $-1 \leq x \leq 0$ では曲線 C が上で曲線 D は下に、 $0 \leq x \leq 2$ においては曲線 D が上で曲線 C が下にある。

したがって、曲線 C と曲線 D および 2 直線 $x = -1, x = 2$ で囲まれた 2 つの図形の面積の和 S は、

$$\begin{aligned} S &= \int_{-1}^0 \{(-x^3 + 9x^2) - (-x^3 + 6x^2 + 7x)\} dx + \int_0^2 \{(-x^3 + 6x^2 + 7x) - (-x^3 + 9x^2)\} dx \\ &= \int_{-1}^0 (3x^2 - 7x) dx + \int_0^2 (-3x^2 + 7x) dx \\ &= \left[x^3 - \frac{7}{2}x^2 \right]_{-1}^0 + \left[-x^3 + \frac{7}{2}x^2 \right]_0^2 \\ &= \left(1 + \frac{7}{2} \right) + (-8 + 14) \\ &= \frac{21}{2} \quad \cdots (\text{答}) \left(\begin{array}{|c|} \hline \text{トナ} \\ \hline \text{ニ} \\ \hline \end{array} \right) \end{aligned} \tag{1}$$

第3問

座標平面上において、直線 $l: y = -x$ がある。2点 $A(2, 0), B(2, 2)$ および、直線 l 上の点 $P(s, -s)$ を考える。ただし、 $s \neq 2$ である。

3点 A, B, P を通る円 C について、その中心を Q とすると、点 Q は点 A と点 B との垂直二等分線上にある。点 A と点 B の垂直二等分線は $y = 1$ であることがわかる。

したがって、点 Q は $y = 1$ 上にある。…(答) ()

そこで、 t を用いて点 Q の座標を $(t, 1)$ とおくと、

$$AQ^2 = (2-t)^2 + 1^2 = t^2 - 4t + 5 \quad \dots(\text{答}) \left(\text{, } \right)$$

$$PQ^2 = (s-t)^2 + (-s-1)^2 = t^2 - 2st + 2s^2 + 2s + 1 \quad \dots(\text{答}) \left(\text{, , , } \right)$$

となる。

一方、 $s \neq t$ のとき、直線 PQ の傾きは、

$$\frac{1+s}{t-s} \quad \dots(\text{答}) \left(\frac{\text{} + s}{t-s} \right)$$

となる。

円 C が直線 l と接するとき、 s の値と円 C の方程式を求める。円 C と直線 l が接するとき、直線 PQ と直線 l は垂直であるから、(なぜなら、 PQ は円 C の半径だから)

$$\frac{1+s}{t-s} \times (-1) = -1$$

$$\therefore \frac{1+s}{t-s} = 1 \quad \dots(\text{答}) \left(\text{} \right)$$

$$\therefore 1+s = t-s$$

$$\therefore t = 2s + 1 \dots(3.1) \quad \dots(\text{答}) \left(\text{, } \right)$$

となる。さらに、(点 Q は円 C の中心だから) $AQ^2 = PQ^2$ であることより、

$$t^2 - 4t + 5 = t^2 - 2st + 2s^2 + 2s + 1$$

$$\therefore 2s^2 - 2st + 2s + 4t - 4 = 0$$

式 (3.1) を代入して、

$$2s^2 - 4s^2 - 2s + 2s + 8s + 4 - 4 = 0$$

$$-2s^2 + 8s = 0$$

$$\therefore s = 0, 4 \quad \dots(\text{答}) \left(\text{, } \right)$$

$s = 0$ のとき、 $t = 1$ で $AQ^2 = 2 = 1^2 + 1^2$ 、

したがって、点 $P(0, 0)$ 、点 $Q(1, 1)$ となるから、円 C の方程式は、

$$(x-1)^2 + (y-1)^2 = 2 \quad \dots(\text{答}) \left(\text{, , } \right)$$

一方で、 $s = 4$ のとき、 $t = 9$ で $AQ^2 = 50 = 7^2 + 1^2 = 5^2 + 5^2$ 、

したがって、点 $P(4, -4)$ 、点 $Q(9, 1)$ となるから、円 C の方程式は、

$$(x-9)^2 + (y-1)^2 = 50 \quad \dots(\text{答}) \left(\text{, , } \right)$$

である。

第4問

a, b を実数とし、 x の3次式

$$P(x) = x^4 - ax^2 - bx - 1 + a + b$$

$$Q(x) = x^3 - 2bx^2 - 4(1 - a - b)x - 8a$$

を考える。

(1) $P(x)$ と $Q(x)$ を a, b について整理すると、

$$P(x) = -(x^2 - 1)a - (x - 1)b + x^2 - 1 \quad \dots(\text{答}) \left(\boxed{\text{ア}}, \boxed{\text{イ}} \right)$$

$$= (x - 1)\{-(x + 1)a - b + (x^2 + x + 1)\}$$

$$= (x - 1)\{x^2 + (1 - a)x + 1 - a - b\} \quad \dots(\text{答}) \left(\boxed{\text{オ}}, \boxed{\text{カ}} \right)$$

$$Q(x) = 4(x - 2)a - 2(x^2 - 2x)b + x^3 - 4x \quad \dots(\text{答}) \left(\boxed{\text{ウ}}, \boxed{\text{エ}} \right)$$

$$= (x - 2)\{4a - 2xb + x(x + 2)\}$$

$$= (x - 2)\{x^2 + 2(1 - b)x + 4a\} \quad \dots(\text{答}) \left(\boxed{\text{キ}}, \boxed{\text{ク}}, \boxed{\text{ケコ}} \right)$$

と因数分解される。

(2) 虚数 α が $P(\alpha) = 0$ を満たすとき、

$$\alpha^2 + (1 - a)\alpha + 1 - a - b \quad \dots(4.1)$$

$$\alpha^2 + 2(1 - b)\alpha + 4a \quad \dots(4.2)$$

であるので、(4.1) から (4.2) を引くと、 α は

$$(-1 - a + 2b)\alpha + 1 - 5a - b = 0 \quad \dots(\text{答}) \left(\boxed{\text{サシ}}, \boxed{\text{スセ}} \right)$$

を満たす。ここで、 a, b が実数であり、かつ α が虚数であることから、

$$-1 - a + 2b = 0 \text{ かつ } 1 - 5a - b = 0$$

$$\therefore a = \frac{1}{11}, \quad b = \frac{6}{11} \quad \dots(\text{答}) \left(\begin{array}{|c|} \hline \boxed{\text{ソ}} \\ \hline \boxed{\text{タチ}} \\ \hline \end{array}, \begin{array}{|c|} \hline \boxed{\text{ツ}} \\ \hline \boxed{\text{タチ}} \\ \hline \end{array} \right)$$

このとき、方程式 $P(x) = 0$ の二つの虚数解を β, γ とすると、

$$\beta + \gamma = -(1 - a) = -\frac{10}{11}, \quad \beta\gamma = 1 - a - b = \frac{4}{11}$$

となるから、

$$\frac{1}{\beta} + \frac{1}{\gamma} = \frac{\beta + \gamma}{\beta\gamma} = \frac{-\frac{10}{11}}{\frac{4}{11}} = -\frac{5}{2}$$

$$\frac{1}{\beta} \times \frac{1}{\gamma} = \frac{1}{\frac{4}{11}} = \frac{11}{4}$$

ゆえに、 $P(x) = 0$ の二つの虚数解の逆数は、2次方程式

$$x^2 + \frac{5}{2}x + \frac{11}{4} = 0 \quad \dots(\text{答}) \left(\begin{array}{|c|} \hline \boxed{\text{テ}} \\ \hline \boxed{\text{ト}} \\ \hline \end{array}, \begin{array}{|c|} \hline \boxed{\text{ナニ}} \\ \hline \boxed{\text{ヌ}} \\ \hline \end{array} \right)$$

の解である。